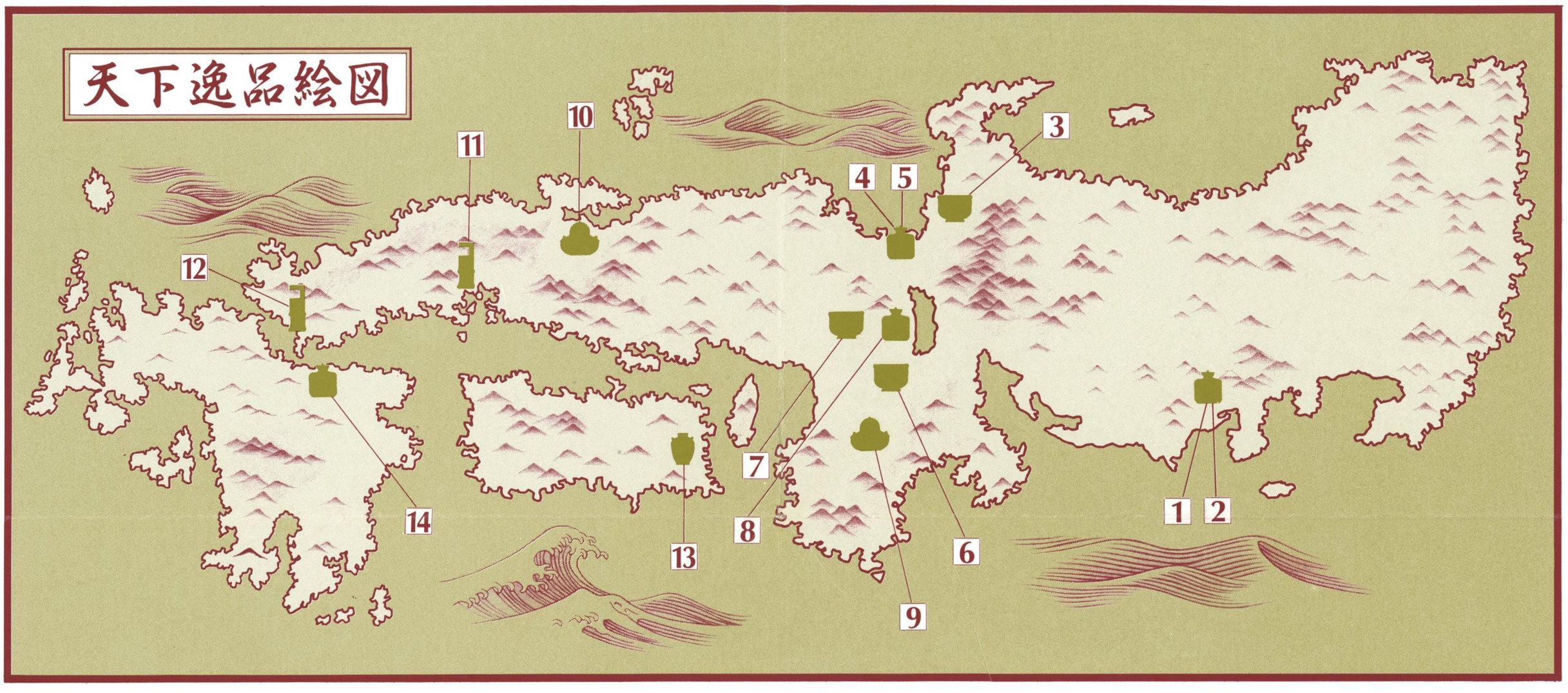
信長の野望
武将風雲録

MEGA DRIVE

KOEI

C1991 KOEI CO.,LTD.



1 駿河
今川義元『唐物茶入 富士(不二)茄子』
義元は桶狭間で信長に奇襲された際にも茶会を開いていたと言われるほど茶道に造詣が深かった。"見越の富士"を模した庭園で開かれた茶会にて用いられたと言う。

2 駿河
太原雪斎『唐物茶入 初花肩衝』
三大肩衝の一。信長、秀吉、家康と持ち主が移動したこの名物は権威の象徴とも言えた。ちなみに今川家の政治と文化を補佐する雪斎の死後四年で当家は衰亡する。

3 加賀
本願寺光佐『紹鷗白天目茶碗』
門徒衆の下間頼龍をはじめとする一向宗徒も当時の文化の重要な担い手だった。光佐の持つ名物は利休の茶の湯の師で陶芸家でもある武野紹鷗の造った茶碗であった。

4 越前
朝倉義景『唐物茶入 朝倉(本能寺)文琳』
後にこれを手に入れた信長がこれを本能寺に寄進したことから別名本能寺文琳とも呼ばれる"大名物"。やがて自らの最期の地となる寺に寄進したのは運命的ですらある。

5 越前
朝倉宗滴『唐物茶入 九十九髪(付藻)茄子』
朝倉家きっての文武両道に秀でた武将宗滴にふさわしい名物。この後松永久秀を経て信長の手に渡る運命にある。政治の道具としても使われた流転の茶器である。

6 伊賀
蒲生氏郷『赤楽茶碗 早船』
武将としても名高い茶人だけで構成された"利休七人衆"の筆頭に挙げられる氏郷の持つ名物は、高麗茶碗の影響が濃い"楽焼"の一種。唐物とは異なる玄妙さがある。

7 山城
細川忠興『黒楽茶碗 鉢開』
利休と朝鮮人陶工長次郎により"楽焼"という新たな美が生まれた。その色彩から赤楽と黒楽に分けられたが、黒楽にはこの他に『大黒』『東陽坊』等の名物がある。

8 山城
細川藤孝『唐物茶入 靫肩衝』
利休の茶の湯を最も忠実に継承したとされるのが"幽斎"藤孝である。利休七人衆の一人だった彼の持つ名物もまた、多くの肩衝茶入の中でも一流と称された物である。

9 大和
松永久秀『古天明茶釜 平蜘蛛』
九十九髪茄子と引き換えに信長の庇護を得て大和一国を任された久秀が、謀反を起こして敗れる際に、信長所望のこの茶釜に火薬を詰めて凄絶な爆死を遂げたという。

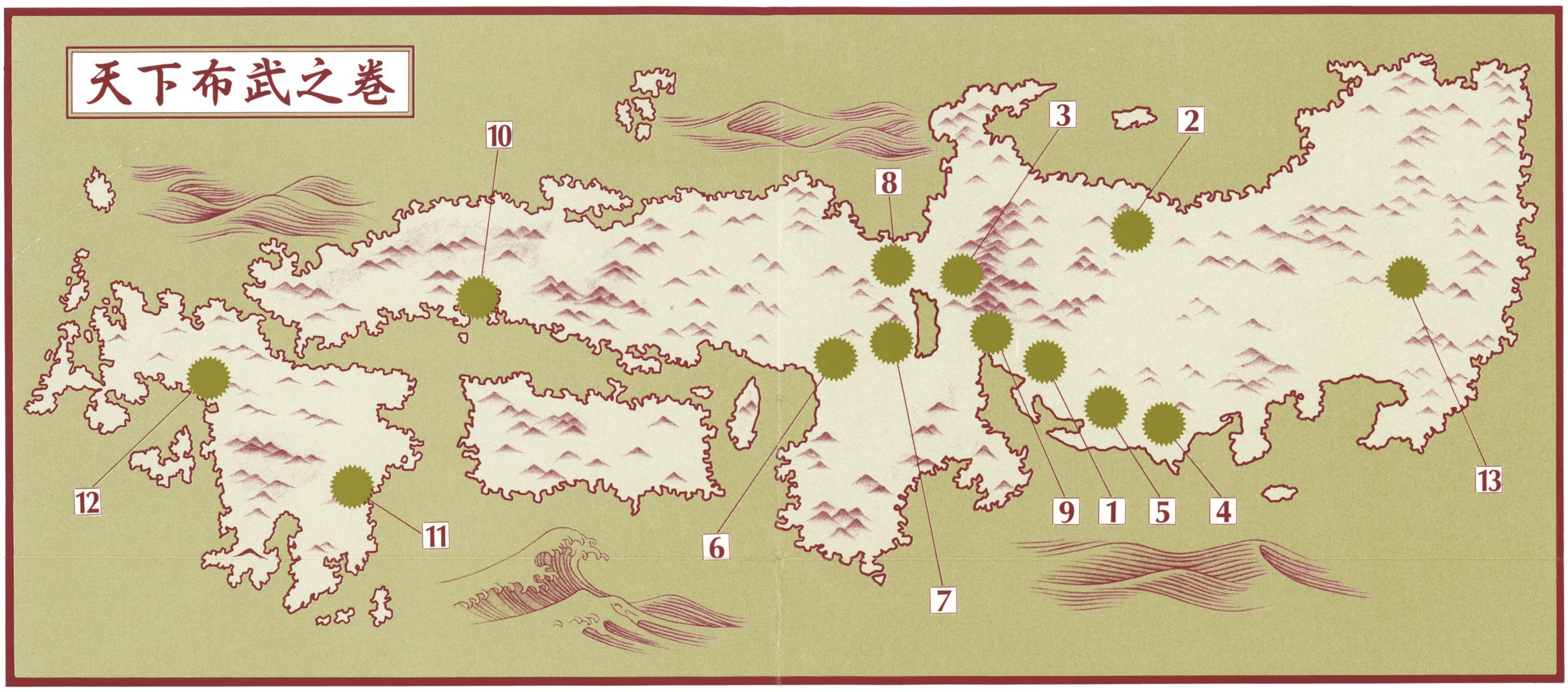
10 出雲
尼子晴久『三刀屋弾正茶釜』
鎌倉以来の名家、三刀屋氏が尼子氏に帰順する際に菩提寺に寄進した。柴木の薪束を模したその胴は横に広く分類上で言う"筒釜"より太鼓型と言えるユニークさがある。

11 安芸
安国寺恵瓊『古銅花入 鶴一声』
恵瓊に見られるような政治手腕に優れた者の一つの条件が茶道を嗜むことである。彼の持つ花入はその名の通り鶴の如き長い頸を持つ優美な形状を誇る逸品だった。

12 周防
大内義長『青磁花入 大内筒』
戦火を逃れた文化人が多く居留し大陸とも古くから交流があったので"小京都"の異名を持つこの国の名物は、大陸文化の色濃い青磁器で、唐風の茶道が主流だと判る。

13 阿波
三好義賢『唐物茶壺 三日月』
"天下無双"と称された名物。不慮の事故で破損したが、割れてなお五千貫文、一万貫文の値打があったといわれる。(参考;一貫文は約15万円程度と考えて下さい)

14 豊後
大友宗麟『唐物茶入 新田肩衝』
"初花""楢柴"と共に三大肩衝と呼ばれる。キリシタン大名の宗麟は後にこれを秀吉に売り教会建築の資金にしようと考えた。名物より宗教を重んじたのである。



1 桶狭間の合戦(1560年)
織田信長 対 今川義元
この年義元は四万の大軍を率いて上洛を開始した。対する信長軍はわずか三千であえて奇襲作戦を仕掛け勝利。今川家臣松平元康はこの後独立、徳川家康と名乗る。

2 川中島の合戦(1553〜1564年)
武田信玄 対 上杉謙信
信玄の信濃攻略に発端して起こり、12年で5回の戦いに及ぶ。一度は武田軍の軍師山本勘助の奇襲作戦さえ見切った謙信だったが、戦略に秀でた信玄が最終的に信濃を手に入れた。

3 姉川の合戦(1570年)
織田信長・徳川家康 対 朝倉義景・浅井長政
信長が行なった朝倉攻めを同盟規約違反として信長の妹婿長政が参戦、更に六角氏や近隣の一向宗門徒も蜂起した。信長の盟友家康も巻き込んで畿内全域にわたる合戦であった。

4 三方ヶ原の合戦(1572年)
武田信玄 対 徳川家康
足利義昭の上洛要請に信玄は家康の実に倍の騎馬軍団を以て信濃から駿河へ侵攻。合戦は戦術、兵力ともに優れた信玄の圧倒的勝利に終わったが、彼の病没によって上洛も途中放棄された。

5 長篠の合戦(1575年)
織田信長・徳川家康 対 武田勝頼
勝頼率いる武田騎馬隊に対するは馬防柵と鉄砲三千挺の織・徳連合軍。信長の情報操作にのせられ慢心していた勝頼はその無謀さ故に信玄以来の重臣、名将を多く失った。

6 石山合戦(1570〜1580年)
織田信長 対 本願寺光佐
阿波三好氏の畿内侵攻に乗じて全国の一向宗門徒が一斉蜂起した。光佐は毛利・上杉と同盟して長期籠城戦を行なうも新兵器"大安宅船"の登場に開城を余儀なくされた。

7 山崎の合戦(1582年)
羽柴秀吉 対 明智光秀
本能寺の変をいち早く知った秀吉は遠征先の中国地方からわずか一週間で上洛する"大返し"を成し遂げた。光秀は孤立したまま秀吉に敗れ、秀吉は天下人に歩を進めた。

8 賤ヶ嶽の合戦(1583年)
羽柴秀吉 対 柴田勝家
山崎合戦以降勢力を広げる秀吉に他の信長重臣が反発、反秀吉派の筆頭勝家が畿内、近江に在る秀吉を周辺全域から攻撃した。しかし勝家の統率力は全軍をまとめられず秀吉の勝利に終った。

9 小牧・長久手の合戦(1584年)
羽柴秀吉 対 徳川家康
賤ヶ嶽の合戦で天下をほぼ手中に収めた秀吉に対抗するは信長の子信雄を擁立した家康。彼の率いる三河武士団はその結束で秀吉を追いつめるが、信雄に対する秀吉の懐柔策で和解した。

10 厳島の合戦(1555年)
毛利元就 対 陶晴賢
毛利軍は四千の軍勢で二万の陶軍を厳島におびき出し奇襲をかけた。少数とはいえ海戦では無敵を誇る能島・来島両水軍を味方につけ、大内氏を謀叛で倒した陶氏の即席軍隊を討ち破った。

11 耳川の合戦(1578年)
島津義久 対 大友宗麟
日向国にキリスト教王国建設を夢みる宗麟は一部の慎重派の意見を無視して侵攻を開始したが、内部分裂と義久の果敢な反撃に多数の犠牲を出し、"日向後家"という言葉が生まれた。

12 今山の合戦(1570年)
龍造寺隆信 対 大友宗麟
六万余の大友軍を佐嘉城にて迎え討つは五千足らずの龍造寺軍。隆信は母の叱咤に促されて夜襲を仕掛け、目前の勝利を酒宴で祝う大友氏本陣に切り込み起死回生を遂げた。

13 摺上原の合戦(1589年)
伊達政宗 対 佐竹義重・蘆名義広
猪苗代盛国の寝返りに乗じて政宗は会津に侵攻を開始、猪苗代湖北西岸の平野部で佐・蘆連合軍と戦火を開いた。機会を逃さぬ判断力と勇猛果敢な攻撃、そして折からの順風による伊達氏の圧勝であった。

※合戦は左が勝者、右が敗者です。(2・9は勝敗未決)